

岩手県金融経済概況（平成 30 年 4 月）

1. 概 況

県内経済は、緩やかな回復基調を続けている。

最終需要の動きをみると、個人消費は底堅く推移している。公共投資は高水準で推移している。住宅投資は高水準ながらも減少傾向を辿っていたが、足もとは下げ止まっている。設備投資は増加傾向を維持している。

生産は、緩やかに持ち直している。

雇用・所得環境をみると、労働需給は引き締まった状況が続いている。

消費者物価（除く生鮮食品）は、16 ヶ月連続で前年を上回った。

2. 最終需要

(1) 個人消費

個人消費は、底堅く推移している。

百貨店売上高（全店舗ベース；平成 30 年 3 月）は、6 ヶ月振りに前年を上回った（前年比+0.2%）。

スーパー売上高（全店舗ベース；平成 30 年 3 月）は、3 ヶ月振りに前年を上回った（前年比+0.1%）。

新車登録・届出台数（乗用車＜含む軽＞；平成 30 年 4 月）は、8 ヶ月連続で前年を下回った（前年比△1.2%）。

(2) 建設投資（公共投資、住宅投資、設備投資）

公共工事請負金額（平成 30 年 4 月）は、5 ヶ月連続で前年を下回った（前年比△2.9%）。

新設住宅着工戸数（平成 30 年 3 月）は、2 ヶ月振りに前年を上回った（前

年比+10.2%)。

—— 持家（前年比△5.6%）が 5 ヶ月振りに前年を下回ったものの、貸家（同+35.9%）、分譲（同+48.4%）ともに 2 ヶ月振りに前年を上回った。

民間設備投資（短観ベース；平成 29 年度実績見込み、30 年度計画）は、29 年度は前年比ほぼ横這い（前年比△0.9%）の見込みとなっているものの、30 年度は前年を 1 割方下回る計画（同△10.2%）となっている。

—— 平成 29 年度（実績見込み）は、製造業の一部で能増投資を後ろ倒しする先がみられるものの、製造業、非製造業とも概ね前年並みの見込み。

—— 平成 30 年度（計画）は、製造業が小幅増加の一方で、非製造業は既往の投資一服や復興需要の減少等から前年を 2 割強下回る計画となっており、全産業では前年に比べ 1 割方減少する計画。

県内の官民建設工事全体の出来高総計（平成 30 年 3 月）は、3 ヶ月連続で前年を下回った（前年比△10.8%）。

3. 生産動向

生産は、緩やかに持ち直している。

鉱工業生産指数（季節調整値；平成 30 年 2 月）は、2 ヶ月振りに前月を下回った（前月比△0.9%）。

—— 主要業種別にみると、輸送機械、化学、印刷が上昇し、生産用機械、電子部品・デバイス、窯業・土石製品が低下した。

なお、四半期の動きをみると、29/7～9 月は 4 期振りに前期比減となった後、29/10～12 月は 2 期振りに前期比増となった（29/1～3 月：前期比+2.4%、4～6 月：同+2.7%、7～9 月：同△3.8%、10～12 月：同+3.1%）。

4. 雇用・所得動向

雇用・所得環境をみると、労働需給は引き締まった状況が続いている。

有効求人倍率（季節調整値；平成 30 年 3 月）は、1.45 倍と高水準を維持している（平成 25 年 5 月以降 59 ヶ月連続で 1.00 倍以上で推移＜過去最長＞）。

雇用保険被保険者数（民間企業中心の全数調査；平成 30 年 3 月）は、前年を上回った（前年比+0.7%；平成 24 年 3 月以降 73 ヶ月連続で増加）。

雇用者所得（県内合計値；平成 30 年 2 月）は、常用雇用指数（前年比

△2.9%)、名目賃金指数(同△2.1%)ともに2ヵ月連続で前年を下回ったため、2ヵ月連続で前年を下回った(同△4.9%)。

5. 物価

消費者物価指数(除く生鮮食品;平成30年4月)は、光熱・水道および交通・通信の上昇等を主因に16ヵ月連続で前年を上回った(前年比+0.9%)。

6. 企業倒産

企業倒産(平成30年4月)は、2件、905百万円(前年同月;3件、98百万円)と落ち着いた動き。

7. 金融面の動向

県内民間金融機関の預金・貸出(平成30年2月)はともに前年を上回った。貸出約定平均金利は前月に比べて低下した。

以 上

本件に関する問い合わせ先:

日本銀行盛岡事務所 TEL: 019-624-3622 (代) <http://www3.boj.or.jp/morioka/>